

食品素材を用いた口腔絆創膏



顎顔面病態診断治療学 口腔内科学

岩淵 博史

IWABUCHI, Hiroshi 准教授 博士 (歯学)

口腔疾患の病態解明と治療法に関する研究や、口腔健康管理の効果やメカニズムの解明などに関する研究に取り組んでいます。口腔粘膜には口内炎や食べ物などに起因する傷が頻繁に生じ、疼痛による食事摂取を困難にします。一般的にこれらの疼痛に対してはステロイド含有軟膏や鎮痛薬が使用されています。しかし、これらの薬剤の長期使用は副作用を伴います。そこで、口腔内創傷部を保護し、疼痛緩和や止血、治癒を促す口腔絆創膏が必要です。口腔絆創膏には安価で安全・安心な素材が求められています。

研究の内容・特徴・独自性

口腔粘膜や歯肉の損傷部、口内炎などの炎症症部を保護することを目的とした医療用グレードの食品素材を薄いシート状に加工した口腔絆創膏を開発中です。

この口腔絆創膏の特徴は以下のとおりです。

- ・ 可食可能な素材を用いているため、安全・安心。
- ・ ステロイドを含まないため、長期使用が可能。
- ・ さまざまな形やサイズに簡単にカットでき、かつ唾液による自己接着が可能。
- ・ 用途に応じて、作用時間も自由に調整可能。
- ・ 食物などの物理的的刺激や喫煙時の煙などから創傷部を保護。
- ・ 咬傷や口内炎などへの刺激を遮断し、痛みを軽減。
- ・ 矯正による口腔創傷の発生を防止。

口腔絆創膏のイメージ



社会実装の可能性

- ・ 市販用途：口内炎などによる疼痛の緩和材料（口腔絆創膏）
- ・ 医療用途：口腔粘膜疾患やがん治療などに伴う口腔粘膜炎の保護材。

アピールポイント

- ・ 口腔絆創膏は可食可能な素材を用いているため、安全・安心。
- ・ 食品または医薬部外品としての発売を目指すため、速やかに商品化可能。コンビニで発売可能。
- ・ 口内炎は国民病といわれており、市場ニーズは高い。

本研究に関する知的財産

- 1) Iwabuchi H, et al.(2012), Relationship between hyposalivation and acute respiratory infection in dental outpatients. Gerontology 58: 205-211.
- 2) 岩淵博史 編著, 臨床で遭遇する口腔粘膜疾患に強くなる本. 東京：クインテッセンス出版 (2019).
- 3) 岩淵博史 監修, 口腔の緩和医療・緩和ケア. 京都：永末書店 (2013).

キーワード

口腔疾患 口内炎 口腔粘膜炎 創傷の保護 口腔管理